

# 食支援つうしん

—新宿食支援研究会通信—  
第64号 2020.4.1発行

今年も9月のフォーラムに向けた企画が始まっており、会場4階の催事フロアではちょっと目線を変えて、子どもから見た食支援の取り組みで、“おもしろい”アイデアが挙がっています。

「食支援を楽しむ、職業体験」をテーマに、食支援に関わる仕事を、誰でも楽しみながら体験できるブースやイベントを企画中です。①「食支援を楽しむ、子ども向け職業体験ブース」②「東京五輪にちなんだ、誰でもコラボイベント」



(※企画・準備中のため、変更となる場合があります)

今度の4階の催事フロアは“おもしろい”を盛り込んで、子どもたちに、食支援の連携を楽しみながら体験してもらい、食支援のサポーターの間口を広げる“まちづくり”へつなげていきます。

そして興味を持った子ども達が、将来的な職業を目指して、次の食支援を担うメンバーとして活躍してくれること、これも新食研の役割として、MTK&H(見つける・つなぐ・結果を出す&広める)していきますよ!

(介護食品販売 高瀬 誠)

## 多職種連携を考える

### ① 専門職以外の職種が食支援に関わる意義

私は歌手です。18年間、芸能事務所の最大手ワタナベエンターテインメントに在籍しながら、海外公演を含めた多くのエンターテインメントを作ってきました。そんな人間がなぜ新宿食支援研究会に在籍することになったのか。その疑問に答える代わりに、歌手が食支援に関わる意味を考えてみたいと思います。

昨年のタベマチサミットに、福祉理美容士の方がいらして下さいました。その方のお話で特に印象に残っていることとして「髪を切っている時に、自然に利用者の方が日々の生活の中で困っていることを相談してくれる」という内容がありました。医療関係者や介護関係者相手だと緊張してしまってなかなか切り出せない話も、髪を切ってもらっているリラックスした時には自然に話すことが出来る。そして理容師はその情報を各関係者に共有することが出来る。誰にとっても得がある、素敵な事例です。私はこの話に、一見食支援に関係がなさそうな職種の間が関わることが、実は理想の食支援に繋がっていくという可能性を感じました。折しもその翌日のタベマチフォーラムのキーワードが「ごちゃまぜ社会」であった事もこの事に重なります。次回ではさらに深くこの事を考察出来ればと思います。

(歌手・管理栄養士 奥村 伸二)

## 幸せな介護

### 株式会社あおいケア

代表取締役 加藤 忠相

「あおいケア」には、国内外から見学者が訪れます。その取り組みは映画（『ケアニン』）になり、与党の有名政治家が視察に来たり、認知症ケアの手法「ユマニチュード」の大家から招かれフランスで講演したり、シンガポールで表彰されたりと、その影響力は世界中に広がっています。

あおいケアでは現在、小規模多機能型居宅介護施設とグループホームを 1 つの敷地内に運営しています。この敷地の周りに壁はありません。事業所の間を通る私道は地域に開放しており、誰もが中を通る事ができます。そうする事で、この私道は小学生の通学路となり、日中デイサービスに通う高齢者の方々との交流が自然と生まれているそうです。

事業所の造りにも工夫を凝らしています。「1/f ゆらぎ」という概念があり、人間は病院の床のようなまっさらな単一情報の空間よりも、木目調の床や家具など視覚に一定の情報が入る空間のほうがリラックスしやすいと言われているそうです。あおいケアの事業所は木材を基調にして設計され、カフェや食堂をオープンするなどしてそこに通う高齢者の方と地域の方が気軽に交流できるような仕掛けがなされています。

加藤先生が利用者の方と関わる時に何より大事にしているのは、「その人のことを知る」という事です。どこから来て何が好きなのか、1人1人の生活背景を徹底的にアセスメントして、その方の慣れ親しんだものを活用し、ストレ

#### 記憶の種類から考えるケアのありかた

- ①意味記憶
- ②エピソード記憶
- ③手続き記憶
- ④プライミング（呼び水）記憶

「私らしさ」とは何によるものなの？  
 = どうあつたら自分らしいのか  
名前 × エピソード × 充実した時間を過ごしている  
 = 手続き記憶  
 = 自分らしさの源泉



ングスを引き出します。デイサービスになかなか馴染めなかった三陸出身の女性に故郷の特産品である「ホヤ」を準備したところ、自ら包丁を手に取って捌きはじめ、みんなに喜んでもらった経験がきっかけですっかり定着された事があったそうです。それは「海馬が委縮すると扁桃体が優位になり『快・不快』の感情が強く残るようになる」「認知症でも手続き記憶やプライミング（呼び水）記憶は保たれやすい」という脳科学の裏付けに沿った実践でもあります。

人は「何かしてもらおう」ばかりでは居心地が悪くなります。「おたがいさま」の関係ができて初めてその場を自分の居場所と感じられるようになるのです。あおいケアの実践は地域共生社会の最先端を走っています。

(文責 佐藤惟)

